

●正会員園長(10名) ●準会員園長(1名) ●新規加入準会員園長(1名)



小谷かなりや第二保育園
小谷 晴美先生

「よくあそび、よくおひるねをする子どもを育てる」を保育方針に、子どもたちが安心して過ごせる第二の家庭をめざしています。季節ごとのさまざまな行事・経験、地域の方との交流等を通して、子ども達が心豊かに成長できるよう職員共々頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたひします。



鳥の子保育園
田鶴原 浩加先生

この度、鳥の子保育園の園長に就任致しました。46年の歴史ある園の保育理念「子どもも保護者も職員も共に育つ保育園」を大切に、四季折々の豊かな自然環境の中で、保護者の皆様、地域の方々と一緒に子ども達が笑顔でいきいきと過ごせるよう、職員一同日々の保育に努めたいと思ひますので、どうぞよろしくお願い致します。



ひまわり乳児保育園
木村 光貴先生

この度、ひまわり乳児保育園の園長に就任いたしました。保護者、地域の人々との信頼関係を大切にし、子どもひとりひとりの生活習慣が身につくよう願ひながら、職員一丸となって保育してまいりますので、よろしくお願いいたひします。



西田保育園
藤田 圭典先生

この度、沙美保育園から新設の西田保育園に転任となりました。新しい園では一から作っていく楽しみが味わえ、既存園ではなかなか出来なかったことも取り組んでいけるのではないかと期待しています。園周辺の環境を生かし保護者の皆様の需要を汲みながら地域の子育て拠点となれるよう努めて参りたいと思ひます。



倉敷市連島保育園
世戸 裕子先生

一人ひとりを大切にしたい環境作りをしながら、子ども自身の力が発揮できる保育を心がけていきたいと思ひます。また、地域とのつながりを大事にしながら、子ども達の成長や育ちを保護者と共に喜んでいきたいと思ひています。よろしくお願い致します。



真備かなりや保育園
狩山 亜由美先生

今回の被災では、皆様に助けられ本当に感謝しております。「すべての子どもたちが心豊かに育つことを考え、やすらげる第二の家庭でありたい」「保護者と地域の願いを大切に、できる限りの支援をしたい」という理念のもと真備に一日も早く活気が戻り子ども達や保護者の心が復興するよう力を合わせていきたいと思ひております。



真備かなりや小規模保育園
脇本 亜希子先生

0歳児から2歳児までの子ども達が、初めて親から離れて生活する小規模保育園。ご家庭の皆さんと健やかな成長を見守り共に喜び合う所となるように気を配り、保育園の役目を念頭に置き、職員一同笑顔で、子育ての援助、応援団として努力していきたいと思ひます。ご指導のほどよろしくお願いいたひします。



ソラ小規模保育園くらしき
若林 雅子先生

家庭的な雰囲気の中で、子ども一人ひとりの性格や発達を大切に、遊びや生活の中で、自主性、思いやり、社会性、好奇心を育てていく保育を心がけています。宜しくお願ひいたひします。

子どもの笑い声が聞こえてくる
 子どもの泣き声が聞こえてくる
 子どもの日々の成長の音が聞こえる
 その子その子の感性に響くような子育て
 本心に難しい命題である
 絵に興味を持つ子ども
 歌うことが大好きな子ども
 太鼓をたたくのが得意な子ども
 身体を動かして 走ったり跳ったり
 花に水をあげ 虫に興味がいっぱい
 何にでも興味津々一生懸命な子ども
 絵本の物語にいつも胸を躍らす子ども
 そのどれもが子どもの感性に一番大事な所
 その子その子の持味を認めてあげること
 子どもの成長過程は 楽しく美しく美しい
 できることだけでなくできるかな？
 その可能性を伸ばすこと
 私たち大人に課せられた保育と教育の要は
 考えを押し付けることなく
 子どもの持つ
 あふれるような感性を成長につなげる
 いろんなものを見て 感じて 触れて
 子どもの感じる心を広げ
 感じることの幅が増えていくように
 たくさんの友達と生活の中で 遊び 刺激を受けながら
 どんな大人になるのかな
 その子の未来を想像すると
 見ているだけで勇気をもらえらる
 きっと持前の感性を広げているだろう
 やっぱ子どもはたからもの

ちまた

耳を傾ける



Min pokyo

公益社団法人
倉敷市民間保育所協議会

平成30年11月7日 No.84

ふれあ

災害が多発する今、わが子に身につけさせたい教養とは？

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 特命准教授 磯打 千雅子



みなさんがお子さんに身につけさせたい教養とはどのようなものでしょうか。これから子ども達が生きていく環境は、ますます災害が多発することが想定されています。気候変動による台風の大規模化と記録的な豪雨、迫り来る南海トラフ地震など、枚挙に暇がありません。私たちの住むこの日本には、災害に対して必ず安全な場所はありません。日本の国土は約7割が森林に覆われており、私たちが住むことができる平野はたったの3割弱です。その平野には洪水などによる浸水被害が、山沿いでは土砂災害が想定されます。このような災害発生危険性がある土地に、日本の人口約7割が住んでいます。加えて国内のどこでも本年6月に大阪で、9月に北海道で発生したような直下型の地震が発生する可能性があります。

どこでいつ災害にあうかわからない今、子ども達が自分自身で災害から身を守るための教養を身につけ、災害と向き合う姿勢を育む家庭や地域での教育が求められています。

「災害から身を守る」と言っても何をしたら良いのなかなかかわりにくいものです。必要な備えは各家庭、個人で大きく異なります。まずはわが家にとって本当に必要な対策は何なのかを家族で話し合ってみるところからはじめてみましょう。

○自宅がいつ建てられたのか調べてみましょう。

昭和56年より以前に建てられた建物は地震に対して弱い可能性があります。その場合は倉敷市役所の補助金を利用して専門家による耐震診断を受けることができます。診断の結果、補強が必要となった場合には工事費の補助も受けられます。

○お住まいの土地が昔どのような場所だったのか調べましょう。

国土地理院のインターネットサイトでは、航空写真や土地の成り立ちに関する情報が掲載されています。また、お住まいの地域の地名も参考になります。「沖、沼、池」などサングイがつく漢字や「川、泉、貝」は水辺に由来していますし、「谷、沢、溝、堀」は低地に由来しています。今はきれいな宅地でも、このような地名は過去に川や谷を埋め立ててできた土地の場合があるので、地盤が弱い可能性があります。

○家のなかで、倒れてこない、落ちてこない、飛んでこない、場所をつくりましょう。

「ここは安全」という場所を家の中でつくり、いざという時に逃げ込み、身を守る練習をしてみましょう。

○これまでどのような災害があったのか調べてみましょう。

地域の資料館や図書館には「○○町史」などのまちの歴史を記録した書籍があり、過去にどのような災害があったのかも記されています。過去に起きた災害は、今後も発生する可能性があります。お住まいの地域に昔から住んでいるお年寄りにお話を聞くのも大変大切です。

○ハザードマップをもう一度見てみましょう。

ハザードマップは、市役所から全家庭に配布されています。もう一度ご自宅と保育園、学校、職場のある地域でどのような災害が想定されているのか確認しましょう。

○家族で「災害が起きたときの約束」を決めましょう。

災害は家族が一緒にいない平日の昼間に起こるかもしれません。連絡がつかない場合でも家族で集まる場所や約束を決めていれば安心です。

最後に、私たちの暮らす倉敷市は、自然の恵みが豊かなとてもすばらしい街です。しかし、自然の恵みが豊かであるということは、反面、自然災害が常に身近に迫っていることと同義であるといえます。大地は例え人工的に表面を改変されても昔のことを良く覚えています。雨が降れば現在の土地利用に関係なく、むかし川だったところにはそのまま水を流そうとします。現在の地形は長い長い時間をかけて出来上がったものです。それは私たちの一生の時間より遙かに長い時間です。

災害が多発する現代だからこそ、私たちはあくまでも自然の一部に住まわせて頂いているということを忘れず、子ども達に自然や災害と向き合うための教養を身につけさせる必要があるのではないのでしょうか。



故新見歩久先生 正六位瑞宝双光章 受章

平成30年2月 社会福祉法人愛和福祉会前理事長、かがやき保育園前園長、故新見歩久先生が「正六位瑞宝双光章」を受章されました。

先生は、平成30年1月にご逝去されるまで生涯現役で、「どのこも こどもは みな たから」と愛情深く、豊かな感性をもって乳幼児保育一筋に邁進されました。

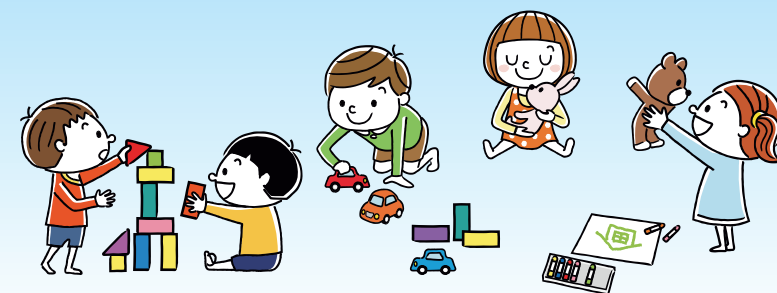
今は亡き先生のご功績を称えとともに、心より感謝申し上げ、先生の保育への思いを継承してまいりたいと思ひます。



これからの保育・幼児教育がめざすもの!

遊びを通して「学びの芽」を育もう!

～大切なのは幼児期にいっぱい遊ぶこと～



0 歳児

先生の膝で絵本を読んでもらっています。一对一の温かい触れ合いの中で発語や指差しに丁寧に応えてもらうことで自然と言葉を覚えていきます。



5 歳児

友達と一緒に絵本を見ながら感じたことを言葉で表現したりみんなで共感していく喜びを味わっています。



1 歳児

同じ形の穴に落として楽しめます。「この形でいいかな?」と試しながら形を認識して集中して遊びます。全部落とし込めると満足です!



5 歳児

丸、三角、四角などの様々なマグネットを使って、イメージしたものを作ります。棒を繋げて文字も作り始めます。友達と協力しながら作りあげる楽しさも感じます。



3 歳児

フープ色当てゲームではサイコロで出た色のフープに友達と協力して入ったり、フープに入らずに困っている友達を呼んで仲間に入れてあげたりします。



5 歳児

椅子取りゲームは、音楽と笛の合図を聞いて友達と同時に座るスリルを楽しみます。1つの椅子に2人で座ると話し合いで決着をつけます。



言葉による伝え合い

先生や友達に気持ちを受け止めてもらい、言葉による伝え合いを楽しめると自分の気持ちを表現できるようになります。

豊かな感性と表現

絵本の絵や内容からイメージを膨らませることで感性が育っていきます。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

小さい時からいろいろな形や、色、大きさのものに触れ、指先の感覚を養いながら認知へとつながっていきます。

思考力の芽生え

何度も繰り返し試して遊ぶ中で考える力が育ちます。

協同性

ルールのある集団遊びをすることで社会性が育ちます。ルールを守ることで仲間と一緒に遊ぶ楽しさを感じるようになります。

思考力の芽生え

子どもたち自身でルールを決めて遊びを考え作り始めます。

道徳性

自分や友達の行動について良し悪しの判断がつくようになります。

健康な心と体

自立心

社会生活との関わり

自然との関わり・生命尊重

豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

道徳性・規範意識の芽生え

思考力の芽生え

協同性

言葉による伝え合い

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

このたび、保育園の保育内容の基本方針である保育所保育指針が改訂されました。

これからの保育・幼児教育がめざす子どもの育ちが上記のように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の項目で示されています。この「10の姿」を就学までに育てていくことが小学校以降の豊かな学びにつながっていきます。子どもたちが「10の姿」に近づいていくためには主体的な遊びや豊かな人間関係がとても大切であり、保育園ではそれらを踏まえて保育をおこなっています。

保育園の生活や遊びの中で、子どもにどのように「学びの芽」を育てているか、その一端をご紹介します。

保育園・こども園では生活・遊びを通して「10の姿」を育てています

一つの遊びの中に沢山の育ちが含まれています

豊かな遊びを沢山経験することで「資質・能力」は乳児期から幼児期を経て小学校以降へ伸びていきます

小学校(学習)での大切な3つの柱の基礎になります!

知識及び技能の基礎

思考力
判断力
表現力

人間性
学びに向かう力

健康な心と体

外気に触れしっかり歩くことでバランス感覚を養い丈夫な体をつくります。

社会生活との関わり

園外の様子を見たり、地域の人々と関わることで、社会生活に関心をもつようになります。

自然との関わり・生命尊重

季節ごとの自然に触れ親しみをもつことから生命の不思議や美しさを感じるようになります。

1 歳児

個々のペースで自由に歩くことを楽しんでいます。一定の距離を歩くことで体力もつき、自信がもてるようになります。



3・4 歳児

花や虫など四季折々の自然や道で出会う人など身近な社会と触れ合う機会になっています。



健康な心と体

生活に必要な活動の中でその必要性に気づき、自分でしようとします。

自立心

生活の流れを予測したり、まわりの状況を把握したりして、自分でしなければならないことを自覚して行うようになります。

1 歳児

手が汚れた時に「きれいにしようね」と保育士と一緒に洗うことできれいにする心地良さを感知しながら生活の仕方を自然に覚えていきます。



5 歳児

戸外から帰ると自分から手洗いに向かいます。「戸外遊びの後には手洗い」「給食前には手洗い」などの見通しをもって生活できるようになります。



豊かな感性と表現

楽しさや嬉しさなど自分の気持ちを様々な方法で表現できるようになります。

0 歳児

音楽やリズムに合わせて、音を鳴らしたり体を動かしたりすることから、楽しい気持ちを表現する喜びを味わっています。



5 歳児

友達と一緒に一つの曲を作り上げる楽しさと達成感を感じています。

